

「マサバ対馬暖流系群の令和5年度資源評価における試算等についてのお願い」への回答

水産資源研究所 水産資源研究センター  
黒田啓行・向 草世香・依田真里・佐々千由紀・  
高橋素光・藤波裕樹・平岡優子・国松翔太

令和5年度の資源評価結果について、以下の前提条件を満たす場合に、以下の内容での試算等及び水産庁主催の会合等における説明をお願いいたします。

#### 【前提条件】

資源管理基本方針（令和2年農林水産省告示第1982号）本則第1の2（4）②のア～オに掲げる「科学的に妥当な条件」を満たすこと。

#### 1. 試算の内容

- ① 令和5年度に更新された資源評価結果における $\beta=0.95$ の漁獲シナリオを対象とし、暦年の資源評価で試算する。
- ② 令和5年の調整済みABCは昨年度資源評価における当初評価ABC（220千トン）から令和4年調整分（14千トン）を差し引いた数量（206千トン）。
- ③ 令和6年の当初評価ABCから、令和5年の調整済みABCへ前借りする数量を千トン単位で試算し、④～⑤の条件を満たす場合の最大値を示す。
- ④ 前借り分を含めた令和5年のABCは、令和5年の再評価ABCを上回らない範囲とする。
- ⑤ 2030年に親魚量が目標管理基準値を上回る確率が50パーセントを上回る。

令和5年度資源評価結果に基づくと、漁獲圧 $0.95F_{msy}$ のもとでの令和5年（2023年）の再評価ABCは21.2万トンであった。

そのため、④の条件を満たす前借りの範囲の最大値は6千トン（再評価ABC21.2万トン-調整済みABC20.6万トン）となる。そこで、以下の漁獲圧の条件で暦年に基づく将来予測を行った。

- ・2023年の漁獲量は21.2万トンに固定（調整済みABC20.6万トン+前借り0.6万トン）
- ・2024年の漁獲量は23.5万トンに固定（ABC24.1万トン-前借り0.6万トン）
- ・2025年以降の漁獲圧は $0.95F_{msy}$ を上限とする漁獲管理規則に基づく

この条件下で2030年に目標管理基準値を上回る確率は54%であった。これは条件⑤を満たすため、令和5年（2023年）の前借りの最大値は6千トンとなる。

## 2. 科学的な助言のお願い

令和5管理年度と令和6管理年度の間でTACを調整した場合に、その調整した数量の一部または全量を、令和5管理年度中にTACから減じた場合、資源管理上のリスクが増加するか否かについて科学的な助言をいただきたい。

TACを削減した場合、元々の将来予測での想定よりも漁獲圧は低下するため、資源回復の速度および確率は高まると予測される。そのため、資源量が減少するもしくは資源の回復が遅れるなどの資源管理上のリスクが増加することはないと考えられる。

事務連絡  
令和5年12月22日

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所 調査・評価部会長 福若雅章 様

水産庁 漁場資源課 沿岸資源班長

マサバ対馬暖流系群の令和5年度資源評価における試算等についてのお願い

マサバ対馬暖流系群について、令和5管理年度の途中で、令和5管理年度と令和6管理年度の間でTACを調整することを検討するにあたり、令和5年度の資源評価結果について、以下の前提条件を満たす場合に、以下の内容での試算等及び水産庁主催の会合等における説明をお願いいたします。

【前提条件】

資源管理基本方針（令和2年農林水産省告示第1982号）本則第1の2（4）②のア～オに掲げる「科学的に妥当な条件」を満たすこと。

1. 試算の内容

- ① 令和5年度に更新された資源評価結果における $\beta=0.95$ の漁獲シナリオを対象とし、暦年の資源評価で試算する。
- ② 令和5年の調整済みABCは昨年度資源評価における当初評価ABC（220千トン）から令和4年調整分（14千トン）を差し引いた数量（206千トン）。
- ③ 令和6年の当初評価ABCから、令和5年の調整済みABCへ前借りする数量を千トン単位で試算し、④～⑤の条件を満たす場合の最大値を示す。
- ④ 前借り分を含めた令和5年のABCは、令和5年の再評価ABCを上回らない範囲とする。
- ⑤ 2030年に親魚量が目標管理基準値を上回る確率が50パーセントを上回る。

2. 科学的な助言のお願い

令和5管理年度と令和6管理年度の間でTACを調整した場合に、その調整した数量の一部または全量を、令和5管理年度中にTACから減じた場合、資源管理上のリスクが増加するか否かについて科学的な助言をいただきたい。

以 上